

水俣病、海を渡る

水銀汚染のメカジキで

F D A 規制強化へ

△食品医薬品局▽

この女性は六八年ごろから、からだのふるえ、しびれ、平衡感覚のまひ、記憶の失せ、精神障害などの自覚症状が出てきたため、お医者を受けた。最初は神経系統の病気と診断されたが、ことし三月の精密検査でまさか水銀中毒との結論が出た。

ハードマン博士によれば、彼女の血液からは安全限界〇・一PPMの三倍、頭髄からは正常水準三PPMをはるかに上回る四・一PPMの水銀が検出された。

ただしFDA(食品医薬品局)が昨年十二月、マクロかん詰めどメカジキの水銀汚染に警告を出して以来メカジキを食べるのをやめたため、現状は改善しており、生命の危険はないと報告している。

米国では肥満を防ぎ、やせるため肉の代わりにマクロやメカジキを食べる老人、婦人が多く、ハーフ

「いたことが現れた」こと

している。

同教授になると、昨年アメリカへ行つたさい、学者たちと話したが、アメリカで水銀汚染が問題になつたのは、一昨年からで、水銀汚染の監視を強化しなければならぬという意識が出はじめていた

が、かなり楽観的だったという。

まだ五大湖周辺で魚を食べね

ミシシッピ川流域で魚を食べね

クが死ぬという報告があるので、これほど当然注目すべきことだと

いう。

すでにFDAは水銀汚染度の高

いマクロかん詰めの販売を制限し、また最近メカジキを市場から

完全に縮め出したが、この報告を

受けた上院環境分科委は、FDA

の対策では不十分とみて、魚の規制基準を強化し、また消費者の水

銀中毒検査を拡大するため、立法措置を検討する方針である。

アメリカでも発生

世界的に水銀汚染が問題になっているが、アメリカでも「水俣病」が発生していることが、二千日わかつた。

【ワシントン二千日共同】米国で初の水銀汚染食品の犠牲者が出たことが二十日明らかにされた。これはニューヨーク州公衆衛生局のハードマン博士が同日、上院商務委員会環境分科委員会の公聴会での証言で報告したもの。この犠牲者は四十四歳の三児の母親で、体重を減らす食事療法のために、六四年から昨年十一月末まで、一日最高約三百五十㌘のメカジキを食べ続けてきたといつ。

ドマン博士は、これ以外にもかくられた犠牲者が少なくないかも知れないと警告している。

当然、考えられていた

水俣病の場合も、患者はすべて水俣病の症候類を長期的に多量に摂取した人で、船大第二病理学教室の武内忠男教授は、「水俣病は別に日本の病気ではなく、当然外国にも進化されるわけだ、恐れ